

市町村における発掘調査の概要  
平成 23 年度（2011 年度）

### (1)市町村の発掘調査一覧

番号	管内	市町村	遺 跡 名	調 査 理 由		面 積	備 考
1	石狩	千歳市	メボシ川2遺跡	開発事業	個人住宅建設	149㎡	
2		恵庭市	ユカンボシE2遺跡	開発事業	市道改良・下水道工事	2,442㎡	
3		恵庭市	ユカンボシE11遺跡	開発事業	市道改良・下水道工事	932㎡	
4		恵庭市	ユカンボシE11遺跡	開発事業	個人住宅建設	185㎡	
5	渡島	函館市	特別史跡五稜郭跡	史跡整備		48㎡	法125条
6		函館市	桔梗2遺跡	開発事業	道路(宅地造成)	220㎡	
7		函館市	亀田中野1遺跡	開発事業	道路(函館新外環状)	1,800㎡	
8		函館市	亀田中野2遺跡	開発事業	道路(函館新外環状)	2,030㎡	
9		松前町	史跡松前氏城跡福山城跡	史跡整備		125㎡	法125条
10		北斗市	茂辺地4遺跡	開発事業	道路(高規格道路)	6,800㎡	
11		森町	鷲ノ木1遺跡	詳細分布	分布調査	9㎡	
12		森町	史跡東蝦夷地南部藩陣屋跡砂原陣屋跡	詳細分布	範囲内要確認	22㎡	
13		森町	鳥崎遺跡	詳細分布	分布調査	8㎡	
14	檜山	上ノ国町	上ノ国市街地遺跡	開発事業	下水道	224㎡	
15		厚沢部町	史跡松前氏城跡館城跡	史跡整備	史跡内要確認	1,348㎡	法99条・法125条
16	上川	旭川市	近文町5遺跡	開発事業	土地造成	2,867㎡	
17		旭川市	近文町6遺跡	開発事業	土地造成	4,169㎡	
18		中川町	オフイチャシ跡	詳細分布		26㎡	
19	宗谷	枝幸町	目梨泊遺跡	学術研究		30㎡	
20	オホーツク	網走市	史跡最寄貝塚	史跡整備		89㎡	法125条
21		北見市	北上2遺跡	開発事業	道路(高規格道路)	2,230㎡	
22		美幌町	高野3遺跡	開発事業	土砂採取	1,090㎡	
23		美幌町	駒生7遺跡	開発事業	土砂採取	41㎡	試掘調査
24		斜里町	カモイバツ遺跡	開発事業	道路(国道改良)	1,170㎡	
25		斜里町	朱円2遺跡	開発事業	農業関連(用水路)	1,811㎡	
26		斜里町	オクシバツ6遺跡	開発事業	農業関連(用水路)	100㎡	
27		斜里町	ポンシュマトカリバツ16遺跡	開発事業	農業関連(用水路)	167㎡	
28	胆振	室蘭市	史跡東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡	史跡整備		42㎡	法125条
29		苫小牧市	(柏原地区所在遺跡)	詳細分布	開発区域	2,079㎡	
30		伊達市	カムイタプコプ下遺跡	学術研究		40㎡	
31		伊達市	北黄金2遺跡	詳細分布		124㎡	
32		洞爺湖町	栄遺跡	詳細分布		63㎡	
33		洞爺湖町	板谷川左岸遺跡	詳細分布		86㎡	
34		洞爺湖町	栄2遺跡	開発事業	道路(道道改良)	766㎡	
35		厚真町	オニキシベ5遺跡	開発事業	ダム建設	3,144㎡	
36		厚真町	フチャラセナイ遺跡	開発事業	ダム建設	4,636㎡	
37		厚真町	ライカルマイ遺跡	開発事業	道路(道道改良)	637㎡	
38	十勝	清水町	御影平和遺跡	開発事業	道路(道道改良)	2,198㎡	
39	釧路	標茶町	マサコヤノシマ遺跡	学術研究		25㎡	
40	根室	根室市	関江谷1竪穴群	詳細分布		14㎡	
41		標津町	史跡標津遺跡群伊茶仁カリカウス遺跡	史跡整備		134㎡	法125条
42		標津町	標津川河口左岸2遺跡	開発事業	河川改修(築堤)	983㎡	

(2) 財団法人北海道埋蔵文化財センターの発掘調査一覧

市町村名	遺跡名
江別市	対雁2遺跡
福島町	館崎遺跡
木古内町	木古内遺跡 木古内2遺跡 大平遺跡 釜谷8遺跡 札苅5遺跡 札苅6遺跡 蛇内2遺跡
北斗市	当別川左岸遺跡 押上1遺跡
長沼町	幌内D遺跡 南六号川左岸遺跡
富良野市	中五区1遺跡 中五区2遺跡 中五区3遺跡
下川町	北町J遺跡
斜里町	斜里朱円周堤墓 (重要遺跡確認調査)
遠軽町	金山6遺跡
更別村	香川遺跡
根室市	トーサムポロ湖周辺竪穴群

詳しくは、財団法人北海道埋蔵文化財センターへお問い合わせください。

### (3) 大学などの発掘調査一覧

市町村名	遺跡名	発掘機関(担当)	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )
札幌市	K39遺跡 (医学部陽子線研究施設地点)	北海道大学埋蔵文化財調査室(高倉純・守屋豊人)	4/1~5/31	1,946
北斗市	矢不來館跡	関根達人	7/30~8/20	216
倶知安町	峠下遺跡	札幌国際大学(臼杵勲・越田賢一郎・坂梨夏代)	8/29~9/4	50
礼文町	浜中2遺跡	千葉大学(柳澤清一・岡本東三)	4/25~5/10	10
礼文町	浜中2遺跡	北海道大学アイヌ・先住民研究センター(加藤博文)	7/1~8/8	48
網走市	能取岬西岸遺跡	北海道立北方民族博物館(角達之助)	10/14~10/18	23
北見市	大島2(TK-11)遺跡	東京大学大学院(熊木俊朗)	8/21~9/13	246
北見市	吉井沢遺跡	佐藤宏之	10/5~10/25	64
斜里町	チャシコツ岬下B遺跡	北海道大学アイヌ・先住民研究センター(加藤博文)	9/13~9/24	40
置戸町	勝山2遺跡	鶴丸俊明・越田賢一郎	9/5~9/10	18
豊浦町	小幌洞穴遺跡	小杉 康	8/20~9/2	8
上士幌町	嶋木遺跡	首都大学東京(出穂雅実)	9/1~9/15	100
大樹町	浜大樹2遺跡	深澤百合子	8/24~9/1	28
中標津町	鱒川3遺跡	千葉大学(柳澤清一・岡本東三)	9/6~9/21	117

詳しくは、各大学などへお問い合わせください。遺跡の位置などは、北の遺跡案内をご覧ください。

ちとせし がわ いせき  
千歳市 メボシ川2遺跡 (掲載番号 A-03-53)

調査理由：開発事業(住宅)  
調査地：千歳市豊里5丁目  
調査主体：千歳市教育委員会  
調査期間：平成23年4月18日～4月29日  
調査面積：149 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

メボシ川2遺跡は、JR千歳駅から東北東に1.8kmほど離れた、メムシ川左岸にある古砂丘を基盤とした、標高10～14mの独立丘陵上に立地しています。南北約480m、東西約200mの独立丘は、現在北半部に往時の姿が残っていますが、南半部は昭和55～58年度の土地区画整理事業によって市街化区域となり、地勢は様変わりしています。この事業に係わる遺跡保護の措置として、昭和56年に区画街路部分の一部が発掘調査され、宅地部分は現状保存とされました。この第1次調査で、縄文時代の竪穴住居跡や墓壇をはじめ、旧石器時代の石器集中地点、擦文時代の墓壇等が検出され、旧石器時代、縄文時代（早期～晩期）、続縄文時代、擦文時代の遺跡であることが分かりました。

今回の調査は、丘陵南東部の宅地部分で実施されたもので、遺構としては、縄文時代前期の墓壇が1基、縄文時代晩期～擦文期のいずれかの時期に属する土坑が1基検出されました。縄文前期の墓壇は、この遺跡では初めて発見されたもので、検出面での長軸長は130cm、北壁際の壇底にはベンガラが、墓壇脇からは1個体分の土器の破片が640点検出されています。

出土遺物は、縄文時代早期から晩期のもので、土器が1,060点、石器は、石鏃が4点、ポイントが1点、二次加工ある剥片が1点、剥片石器破片が1点、石器剥片・破片が126点（以上はすべて黒曜石製）、敲石が2点（安山岩製）、礫が17点検出されました。



遺跡位置図



検出された墓壇

この遺跡についてのお問い合わせ

千歳市の遺跡をもっと知りたい方は **千歳市埋蔵文化財センター** まで

住 所： 千歳市長都 42-1

電話・FAX： 0123-24-4210

E メール： [maibun@city.chitose.hokkaido.jp](mailto:maibun@city.chitose.hokkaido.jp)

開館時間： 9:00～17:00

閉 館 日： 土曜日・月の第2日曜日を除く日曜日・祝日  
年末・年始（12月29日～1月3日）

えにわし いー いせき  
恵庭市 ユカンボシE2遺跡 (登載番号 A-04-3)

調査理由：開発事業（道路・水道）  
調査地：恵庭市和光町5丁目498-3地先 市道  
調査主体：恵庭市教育委員会  
調査期間：平成23年5月10日～10月31日  
調査面積：2,442 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

ユカンボシE2遺跡は、JR千歳線恵庭駅の南東約1.2km、ユカンボシ川右岸段丘上（標高28～30m）に位置しています。道路と水道の工事を原因とする発掘調査は、平成22年度も隣接するユカンボシE11遺跡で行われ、今回が2年目になります。昨年度の調査では、初めて縄文時代の「矢」が発見され話題となりました。

今回確認できた遺構には、縄文時代中期から後期前葉（約5,000年から3,800年前）の竪穴住居跡4軒、縄文時代前期から晩期前葉（約6,000年から2,800年前）の土坑59基、擦文時代前期からアイヌ文化期（約1,400年から300年前）の集石3ヵ所などがあります。

遺物は縄文時代の土器や石器など、約33,000点見つかりました。そのうち縄文時代晩期前葉の土器が約20,000点と半数以上を占めています。ユカンボシE2遺跡では過去に2度住宅の発掘調査が行われましたが、狭い調査区にもかかわらず晩期前葉の土器が約48,000点出土しています。この時期の竪穴住居跡はユカンボシE2遺跡では見つかりませんが、縄文時代晩期前葉に盛んにこの遺跡が利用されていたことがうかがえます。

報告書は平成24年3月に刊行します。



遺物出土状況



石斧集中

恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は **恵庭市郷土資料館** まで

住所：恵庭市南島松157-2 ☎ 0123-37-5303

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜日、祝日の翌日、毎月最終金曜日、年末年始

URL：<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

えにわし いー いせき  
恵庭市 ユカンボシE11遺跡 (掲載番号 A-04-117)

調査理由：開発事業（道路・水道）  
調査地：恵庭市和光町5丁目530-27地先 市道  
調査主体：恵庭市教育委員会  
調査期間：平成23年5月10日～10月31日  
調査面積：932 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

ユカンボシE11遺跡は、JR千歳線恵庭駅の南東約1.5km、ユカンボシ川右岸段丘上（標高26～28m）に位置しています。

道路と水道の工事を原因とする発掘調査は平成22年度も行われ、今回が2年目になります。昨年度の調査では、初めて縄文時代の「矢」が発見され話題となりました。

今回確認できた遺構には、縄文時代中期から後期前葉（約5,000年から3,800年前）の竪穴住居跡6軒、縄文時代中期から晩期中葉（約5,000年から2,600年前）の土坑42基などがあります。

遺物は縄文時代の土器や石器など、約6,100点見つかりました。土器は土坑と同じ時期の縄文時代中期から晩期中葉のものが多く見つかりました。昨年度も同様な時期の土器が多く出土しており、この遺跡が縄文時代中期から晩期中葉にかけて盛んに利用されていたことがわかりました。恵庭市では同じような時期の遺跡がたくさん見つかっていることから、当時もひびょうに暮らしやすい環境だったと考えられます。

この報告書は平成24年3月に刊行します。



竪穴住居跡



土坑

恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は **恵庭市郷土資料館** まで

住所：恵庭市南島松157-2 ☎ 0123-37-5303

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜日、祝日の翌日、毎月最終金曜日、年末年始

URL：<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

えにわし いー いせき  
恵庭市 ユカンボシE11遺跡 (掲載番号 A-04-117)

調査理由：開発事業（住宅）  
調査地：恵庭市和光町5丁目530-19  
調査主体：恵庭市教育委員会  
調査期間：平成23年8月18日～9月9日  
調査面積：185 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

ユカンボシE11遺跡は、JR千歳線恵庭駅の南東約1.5km、ユカンボシ川右岸段丘上（標高26～28m）に位置しています。

ユカンボシE11遺跡では、平成22・23年度に道路と水道の工事を原因とする発掘調査も行われており、平成22年度の調査では、初めて縄文時代の「矢」が発見され話題となりました。今回の発掘場所は「矢」が見つかった住居跡から約70m南東側にあたります。

今回確認できた遺構は、縄文時代後期前葉（約3,800年前）の土坑4基と柱穴38個、縄文時代から擦文時代にかけての焼土6カ所です。

遺物では、縄文時代の土器548点、石器や礫など181点が出土しました。土器は約9割が縄文時代後期前葉タプコブ式で、残りの1割が中期の土器でした。

タプコブ式の土器は、石狩地方や胆振地方を中心に見つかっています。ユカンボシE11遺跡の過去の発掘調査ではタプコブ式期の竪穴住居跡も見つかっており、この遺跡で縄文人がユカンボシ川の恵みを利用して生活していた様子がうかがえます。

報告書は平成24年3月に刊行します。



調査区



土坑

恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は **恵庭市郷土資料館** まで

住所：恵庭市南島松157-2 ☎ 0123-37-5303

開館時間：9:30～17:00

閉館日：月曜日、祝日の翌日、毎月最終金曜日、年末年始

URL：<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1200034453965/index.html>

調査理由：史跡整備（遺構確認）

調査地：函館市五稜郭町 3-2

調査主体：函館市教育委員会

調査期間：平成 23 年 5 月 19 日～6 月 30 日

調査面積：48 m<sup>2</sup>

## 位置と環境

特別史跡五稜郭跡は、函館山を要として扇状に広がる函館市街地のほぼ中央、標高 15m ほどの平坦地に位置しています。稜堡と呼ばれる 5 つの突角を有する星形五角形の「西洋式土塁」で、幕末の箱館開港に伴い設置された箱館奉行所の防御施設です。築造当時の郭内には、奉行所庁舎をはじめ 25 棟の付属建物や門・板塀・柵・上下水道などの施設が配置され、開港に伴う対外政策や蝦夷地統治の拠点として重要な役割を担っていました。明治維新の際には箱館戦争の舞台ともなり、明治 4(1871)年に郭内建物の大半が解体されました。

函館市では、文化庁の補助による復元整備事業を実施し、その主となる箱館奉行所は、平成 22 年 7 月の開館以来、多くの市民や観光客に親しまれています。



特別史跡五稜郭跡全体図

## 調査の概要

発掘調査は、五稜郭唯一の排水経路となる半月堡西側の石積み暗渠排水路遺構について、長斜坂に調査区を設定し、その状況や構造を確認するために実施しました。

調査の結果、表土下から水性堆積の青灰色粘土層が厚く堆積していることが確認されました。この粘土層は、五稜郭築造時に堀の掘り上げ土を積み上げて構築した長斜坂の本体にあたる部分となります。なお、周辺の一部で見られる表土の沈下は近年の工事に起因



調査区南壁土層断面

するもので、この青灰色粘土層自体には沈下が見られないことが確認されました。また、当該箇所はその深部に石積み暗渠排水路遺構が埋設されており、その排水路を敷設した後に掘り上げ土を積み上げていたことが確認されました。遺物は、幕末期の瓦片・陶磁器片・ガラス片などが少量出土しました。

その後、さらに粘土層を掘り下げたところ、地表下約3mの地点(現在の堀水の常水位とほぼ同じレベル)で水が湧き出したことから止水を試みましたが、調査区内から完全に排水することはできず、記録を作成し調査を終了しました。なお、水湧出の際に湧出口を探ったところ、石積みの暗渠排水施設の蓋石と思われる構造物が確認されました。

水の流出は堀石垣の裏込め部分から水が回っていることが想定されることから、次年度に堀石垣周辺の構造確認を行い止水方法について検討した後に、石積み暗渠排水施設の整備手法について決定していくこととしています。

なお、発掘調査報告書については、当該箇所の整備が完了した際に刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは **函館市教育委員会生涯学習部文化財課** まで

住 所：函館市東雲町 4-13

電 話：0138-21-3472

[http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board\\_of\\_edu/lifelong\\_learning/cultural\\_assets/](http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/)

函館市の遺跡をもっと知りたい方は **市立函館博物館** まで

住 所：函館市青柳町 17-1

電 話：0138-23-5480

開館時間：9:00～16:30

閉 館 日：月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など

[http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board\\_of\\_edu/lifelong\\_learning/museum/](http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/museum/)

はこだてし ききょう いせき  
函館市 桔梗2遺跡 (掲載番号 B-01-110)

調査理由：開発事業（宅地）  
調査地：函館市桔梗町 408-44  
調査主体：函館市教育委員会  
調査期間：平成 23 年 7 月 5 日～7 月 15 日  
調査面積：220 m<sup>2</sup>

### 位置と環境

桔梗2遺跡は、昭和 58 年 5 月、函館新道建設に伴う事前調査によって発見された遺跡です。これまで昭和 62 年と平成 19 年の 2 回調査がなされ、旧石器時代の石器製作跡や縄文時代中期を中心とした集落（竪穴住居跡 42 棟・フラスコ状ピット 24 基・ピット 116 基・Tピット 76 基・焼土 4 ヲ所）と、旧石器から続縄文時代にかかる幅広い時期の遺物が発見されています。中でも旧石器時代のナイフ様石器、縄文時代のシャチを模した土製品や、ピットから発見された大量の炭化クルミなど、研究者の注目を集める遺物が出土したことでも知られています。

遺跡は、横津岳から沖積低地へ向かう標高約 30m 程の段丘状に位置しています。遺跡の東側には小規模な河川（石川）があり、西側には津軽海峡に面した沖積低地へと続く西桔梗台地が広がっています。この台地とその縁辺部には南北北海道を代表するサイベ沢遺跡をはじめとする 19 の遺跡が所在し、昭和 47 年には函館圏流通センター建設に伴って 7 遺跡が調査されています。

### 調査の概要

平成 23 年度の調査では、竪穴住居跡 2 棟、フラスコ状の貯蔵穴が 2 基、墓とみられる土坑 1 基、Tピット 1 基、柱穴・ピットが発見されました。竪穴住居跡は、床面の出土遺物から、それぞれ縄文時代中期中葉と中期後葉のものとみられます。



フラスコ状ピット



竪穴住居から出土した縄文土器

遺物包含層は後世の攪乱により削平を受けていましたが、縄文時代中期中葉から後葉にかけての土器・石器が出土しています。

桔梗2遺跡は、西桔梗台地周辺に広がる遺跡群とあわせ、今から5,000～4,000年ほど前にあたる縄文時代前期から中期にかけての、北海道の指標となる遺跡の一つです。今回の調査により、縄文中期に営まれていた集落の広がりを確認することができました。

この調査の成果は、平成24年3月末に刊行される予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは **函館市教育委員会生涯学習部文化財課** まで

住 所：函館市東雲町4-13

電 話：0138-21-3472

[http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board\\_of\\_edu/lifelong\\_learning/cultural\\_assets/](http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/)

函館市の遺跡をもっと知りたい方は **市立函館博物館** まで

住 所：函館市青柳町17-1

電 話：0138-23-5480

開館時間：9:00～16:30

閉館日：月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など

[http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board\\_of\\_edu/lifelong\\_learning/museum/](http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/museum/)

調査理由：開発事業（道路）  
調査地：函館市亀田中野町70-2  
調査主体：函館市教育委員会  
調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団  
調査期間：平成23年5月2日～平成23年6月30日  
調査面積：1,800 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

亀田中野1遺跡は、函館市街の北西を流れる中野川の上流、公立はこだて未来大学にほど近い沢沿いの段丘上にあり、この遺跡での調査は、昨年に続き今年で2年目になります。

今年度の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、土坑6基、焼土2ヵ所が見つかりました。竪穴住居は一部調査区外に広がっていましたが、直径2.5mほどの円形をしています。壁は削平を受け、高さ20cmしか残っておらず、床の中央には、深さ約30cmの柱穴が1本見つかりました。土坑6基のうち1基は、住居の北西側の端で重なり合って検出されました。土坑の底からは、小型の深鉢形土器が口縁を下にした状態で出土しています。

この時期の小型の住居と土坑が重複する例は、函館市の桔梗2遺跡や陣川町遺跡、南茅部地域の豊崎F遺跡、磨光A遺跡などでも見つかっており、今後は住居と土坑との関わりを考察していきたいと考えています。

遺物は315点出土しており、サイベ沢Ⅶa式と呼ばれる、細い粘土紐が貼り付けられた縄文時代中期中ごろの土器や、スクレイパー・磨製石斧・擦石・台石・石皿などの石器が出土しています。



土坑と切り合う竪穴住居跡



土坑出土の小型深鉢形土器

この遺跡についてのお問い合わせは 函館市教育委員会生涯学習部文化財課 まで

住 所：函館市東雲町4-13

電 話：0138-21-3472

[http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board\\_of\\_edu/lifelong\\_learning/cultural\\_assets/](http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/)

函館市の遺跡をもっと知りたい方は **市立函館博物館** まで

住 所：函館市青柳町 17-1

電 話：0138-23-5480

開館時間：9:00～16:30

閉 館 日：月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など

[http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board\\_of\\_edu/lifelong\\_learning/museum/](http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/museum/)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：函館市亀田中野町 65-2

調査主体：函館市教育委員会

調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団

調査期間：平成 23 年 10 月 12 日～平成 23 年 11 月 14 日

調査面積：2,030 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

今年度 7 月に函館市教育委員会が行った試掘調査により所在が確認された、現在函館市内で最も新しく登録された遺跡です。

遺跡は、函館市亀田中野町を南西方向に流れる中野川の西側の段丘のへり、標高約 85 m～89mの位置に立地しています。対岸には亀田中野 1 遺跡があります。

発掘調査が必要とされた範囲は 4,700 m<sup>2</sup>ですが、そのうち、造成などによって強く削平を受けている部分 2,030 m<sup>2</sup>については、遺構確認調査を行いました。

調査の結果、遺構では縄文時代中期中ごろの竪穴住居跡 1 軒、土坑 15 基、落し穴 5 基が見つかりました。

竪穴住居は、調査区のなかでも段丘のへり近くに位置し、長軸 6 m、短軸 4 m の規模で隅丸方形をしています。壁は削平のため高さ 20 cm ほどしか残っていませんでしたが、4 本の柱穴や壁際を巡る周溝などが残っていました。

土坑には形状が円形、楕円形、隅丸方形、隅丸長方形をしたものがあり、底面に遺物が残っているものや、周溝の巡るものがありました。

また、落し穴には底に杭穴列が残るものも見られるなど、特徴のある遺構が見つっています。

遺物は 577 点出土しており、縄文中期のサイベ沢Ⅶ式を主体とした土器や、石鏃・スクレイパー・石斧・北海道式石冠・擦石などの石器が出土しています。



竪穴住居跡と函館山（右上）



亀田中野2遺跡出土の石器

この遺跡についてのお問い合わせは **函館市教育委員会生涯学習部文化財課** まで

住 所：函館市東雲町 4-13

電 話：0138-21-3472

[http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board\\_of\\_edu/lifelong\\_learning/cultural\\_assets/](http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/cultural_assets/)

函館市の遺跡をもっと知りたい方は **市立函館博物館** まで

住 所：函館市青柳町 17-1

電 話：0138-23-5480

開館時間：9:00～16:30

閉 館 日：月曜日・毎月最終金曜日、祝日、年末年始など

[http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board\\_of\\_edu/lifelong\\_learning/museum/](http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/board_of_edu/lifelong_learning/museum/)

調査理由：史跡整備

調査地：松前町字松城

(堀廻り地区：字松城 146 番地、光善寺庭園：字松城 303 番地)

調査主体：松前町教育委員会

調査期間：平成 23 年 6 月 1 日～10 月 31 日

調査面積：125 m<sup>2</sup> (堀廻り地区：41 m<sup>2</sup>、光善寺庭園：84 m<sup>2</sup>)

## 調査の概要

福山城は、前身である福山館に三ノ丸や郭を増設するなど、大規模に改修し、安政元年(1854)に完成しました。福山城の特色は、外国船対策(海防)を目的とする構築で、城内三ノ丸に7基の台場(砲台)を備えているものとしては、我が国唯一の日本式城郭です。明治維新の後、明治8年(1875)までに北海道開拓使によって取り壊されましたが、天守とその周辺の建物は残されました。これらの遺構は一時国宝となりましたが、昭和24年(1949)に天守を焼失し、現在は「本丸御門」が重要文化財として保存されています。

史跡整備事業は、昭和50年に第一次保存管理計画を、平成8年度には第二次保存管理計画を策定し、平成11年度から平成14年度にかけて、文化庁の「ふるさと歴史の広場」事業により、二ノ丸・三ノ丸南東部を集中的に整備しました。平成19年度からは本丸西側の「堀廻り地区」の調査を行い、旧地形が明らかとなりました。今年度は「堀廻り地区」と、寺町地区の西端に位置する「光善寺庭園」の調査を行いました。

「堀廻り地区」では、寺町に隣接する土塁を調査し、幕末築城時の旧地表面と、土塁の版築状況を確認しました。本丸土居側では、本丸土居石垣の根拠りを検出しました。

「光善寺庭園」の調査では、滝口石組や、玉砂利による州浜、庭池の出島・築山の版築状況を確認しました。過年度の調査成果をふまえると、本庭園は、①池底まで掘り込まれた時期(近世後期)、②黒色土及びロームが版築された時期(幕末)、③火災残滓を含む褐色土により埋め戻された時期(明治36年か)、④日本庭園研究会による手入れがなされた時期(昭和56年)というように、4つの時期に分けることができます。なお、今現在、庭



堀廻り地区 寺町側土塁



光善寺庭園 滝口石組

園の周囲は木々が生い茂っていますが、昭和 56 年ころ撮影したとみられる写真では、木々がまだ小さく、築山の北西方向に「借景」として御髪山を望むことができます。

いずれの調査地点でも、縄文土器・近世陶磁器・瓦・古銭・近現代のガラスなどが出土しています。報告書は、平成 24 年 3 月に刊行予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

**松前町教育委員会**

☎ 0139-42-3060

または

**松前町発掘調査事務所**

まで

☎ 0139-42-5330

ほくとし もへじ いせき  
北斗市 茂辺地4遺跡 (登録番号 B-06-72)

調査理由：開発事業(道路)

調査地：北斗市茂辺地 821

調査主体：北斗市教育委員会（調査実施：特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団）

調査期間：平成 23 年 7 月 12 日～平成 23 年 11 月 17 日

調査面積：6,800 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

茂辺地4遺跡は、JR茂辺地駅から約1kmほど西側、茂辺地川から見て南側の海岸段丘上、標高67～75mの位置にあります。高規格道路函館江差自動車道の工事が行われる用地内約21,000m<sup>2</sup>が調査を必要とする遺跡の範囲ですが、今年度はそのうち北側6,800m<sup>2</sup>の範囲について発掘調査を行いました。

今年度の調査範囲は東西方向に横切る沢によって北と南に区切られており、そのうち沢北側6,600m<sup>2</sup>について遺構確認調査を行いました。遺構は南西側の隅から土坑が2基見つかったのみでした。遺物については、表土から縄文時代早期～後期の土器の破片や石器などが混在した状態で見つかっています。この表土は、他の場所で掘り返された土が盛られたものなので、近くにこれらの時代に相当する遺跡が存在する可能性が考えられます。

沢南側については、幅2m・長さ20mの試掘溝(トレンチ)を一定の間隔を開けて5本、合計200m<sup>2</sup>掘り、遺跡が調査区のなかにどのように分布しているかについて確認するための調査を行いました。その結果、調査区東側の斜面に遺物・遺構が集中していることがわかりました。遺物は、縄文時代後期前半を中心とした土器や、石鏃・スクレイパー・擦石・敲石・砥石・台石といった石器など、約3,000点が出土しています。遺構は土坑が2基、地床炉(地面で火をたいた跡)が1基見つかっています。

次年度以降は、今年度得られた結果をもとに調査を進める予定です。



茂辺地4遺跡の位置



沢南側の調査風景

この遺跡についてのお問い合わせや

北斗市の遺跡についてもっと知りたい方は **北斗市教育委員会** まで

住所：〒049-0156 北斗市中野通2丁目13-1 ☎ 0138-74-2000

もりまち わし き いせき  
森町 鷺ノ木 1 遺跡

(掲載番号 B-14-25)

しせき ひがしえぞちなんぶはんじんやあと さわらじんやあと  
史跡 東蝦夷地南部藩陣屋跡 砂原陣屋跡

(掲載番号 B-14- 7)

とりざきいせき  
鳥崎遺跡

(掲載番号 B-14-17)

調査理由：分布調査（鷺ノ木 1・鳥崎）、範囲内容確認（砂原陣屋）

調査地：鷺ノ木 1 茅部郡森町字鷺ノ木町 169 ほか

砂原陣屋 茅部郡森町字砂原 4 丁目

鳥崎 茅部郡森町字鳥崎町 31-1 ほか

調査主体：森町教育委員会

調査期間：鷺ノ木 1 平成 23 年 7 月 6 日～ 7 月 29 日

砂原陣屋 平成 23 年 9 月 5 日～10 月 16 日

鳥崎 平成 23 年 11 月 7 日～11 月 9 日

調査面積：鷺ノ木 1 9 m<sup>2</sup>、砂原陣屋 21.5 m<sup>2</sup>、鳥崎 8 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

鷺ノ木 1 遺跡は、森町市街地から北西に約 2 km 離れた「鷺ノ木史跡公園」内にあります。海岸段丘上の標高約 17m に位置し、海岸線に向かって急な斜面になっています。これまで発掘調査は行われていませんが、遺物が表面採取できることから遺物包含地として掲載されていました。公園敷地内の段丘上 4 ヶ所と段丘下 2 ヶ所に試掘坑を設定し調査したところ、台地上の試掘坑 2 ヶ所で、縄文時代中期末から晩期までの遺物が多数出土しました。

砂原陣屋跡は、旧砂原町市街地の噴火湾沿岸から約 100m 離れた、標高約 13m の海岸段丘上に位置しています。昭和 48 年に土塁とその内部が国の史跡に指定されていますが、史跡に含まれていない土塁外側の堀を確認するため、調査を行いました。その結果、堀の開口部が検出され、覆土から陶磁器 1 点が発見されました。平成 24 年度も堀の全体像を把握するため継続して調査し、報告書を刊行する予定です。



砂原陣屋 堀の断面



砂原陣屋の堀から出土した陶磁器

鳥崎遺跡は、森町市街地から北西に約 1 km、標高 16m の海岸段丘上に位置し、昭和 49 年に鉄道線路敷設工事に伴う緊急発掘調査が行われています。遺跡付近では以前から、よ

り多くの遺物が表面採取されており、今回は、遺跡の広がり把握するため、同じ海岸段丘上の海岸線より約500m内陸で標高約27mの地点と、段丘下の標高約8mの地点の2カ所を調査しました。いずれの調査区からも遺物は出土していません。

なお、鷺ノ木1遺跡と鳥崎遺跡については、平成23年度中に報告書を刊行する予定です。

これらの遺跡についてのお問い合わせは **森町教育委員会** まで

☎ 01374-2-2186

森町の遺跡をもっと知りたい方は **森町遺跡発掘調査事務所** まで

住 所：茅部郡森町字森川町 292-24

☎ 01374-2-2240

開館時間：9時～16時

閉館日：土日祝日・年末年始

E-mail：[mori-washi-site@festa.ocn.ne.jp](mailto:mori-washi-site@festa.ocn.ne.jp)

調査理由：開発事業(下水道)

調査地：檜山郡上ノ国町字上ノ国 136-1～165-1

調査主体：上ノ国町教育委員会

調査期間：平成 23 年 5 月 31 日～6 月 21 日

調査面積：224 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

本遺跡は北に大潤湾、東に天の川、南に国指定史跡の勝山館跡を望む海浜部に立地し、字上ノ国地区の約 6 割程をその遺跡範囲としています。平成 7 年度以降、住宅建て替え時の緊急発掘調査や、分布調査を実施し、縄文～江戸時代終わりごろまでの遺構や遺物が多数出土しています。

今年度の調査は、遺跡の西部分の町道大潤漁港線の延長約 300m の区間で実施されました。



上ノ国市街地遺跡 位置図

発見された遺構は、木材を数段重ねて 3 列に配置された水路と考えられる木枠や、扁平な礫が配置され、その周辺が突き固められている通路跡か庭の飛び石と考えられる飛び石



敷石状遺構

状遺構、さらに扁平な礫が 15 個程整然と配置されている建物礎石か通路と考えられる敷石状遺構が確認されており、いずれも江戸期の土層から発見されています。

出土遺物は江戸期の唐津・肥前系、瀬戸・美濃、越前、備前や中世の中国製青磁、白磁、染付などの陶磁器が約 3,000 点の他、中世から江戸期にかけての釘、鋸、刀子、楔、鍋、釣針、煙管等の金属製品、箸、杭、曲物などの木製品等約 280 点が出土しています。

本遺跡の主体となる時期は江戸期ですが、中世の遺物も出土しており、南西には勝山館、南東に花沢館、北には洲崎館があり、また記録によると 17 世紀代には松前、亀田に次ぐ集落であったことから、これらの館に囲まれた地区は、中世から近世にかけての日本海側

における和人の一大集住地区であったと考えられます。

発掘調査報告書は平成 24 年 1 月末に刊行済です。

上ノ国町の遺跡や文化財についてのお問い合わせは

**上ノ国町教育委員会事務局** まで

☎ 0139-55-2230 Fax 0139-55-1044

ホームページ <http://www.town.kaminokuni.lg.jp/>

あつさぶちよう しせき まつまえししるあと たてじょうあと  
厚沢部町 史跡 松前氏城跡 館城跡 (登載番号 C-03-14)

調査理由: 史跡整備 (史跡内容確認)

調査地: 檜山郡厚沢部町字城丘 170-1、176-1、177-1、179-1 地先、182-2 地先

調査主体: 厚沢部町教育委員会

調査期間: 平成 23 年 8 月 18 日～平成 23 年 11 月 30 日

調査面積: 1,348 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

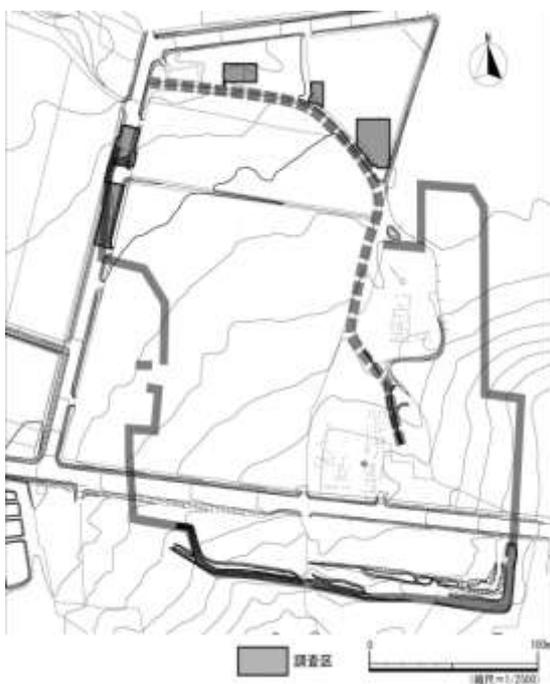
館城跡は、明治元年 (1868) に松前藩によって築城された城郭で、同年 11 月 15 日、戊辰箱館戦争による旧幕府軍の攻撃を受け、落城しました。以後、再建されることなく現在に至ります。

館城跡では、城の外郭線を構成する堀や柵列の調査を中心に、昭和 63 年～平成 2 年、平成 17 年～22 年の計 9 次にわたる発掘調査が実施されてきました。これらの調査によって、館城跡東側、南側、西側の堀・柵列の所在が明らかになっています。

平成 22 年には、館城跡西側の町道敷地内において堀が屈曲して北へのびることが確認されました。

今年度の調査は、町道敷地内の堀や柵の検出を目的として調査を実施するとともに、館城跡北辺にあたる沢状地形の北側の地域の遺構確認調査を実施しました。

その結果、町道敷地内において、堀は町道とほぼ並行して北へのび、約 50m 北で東に屈曲することが分かりました。沢状地形北側の調査区では遺構は検出されず、沢状地形の北



遺構・調査区配置図



堀検出状況

側は館城跡の郭外である可能性が高まりました。

このように、今年度の調査では、館城跡西側の外郭線の確認について大きな成果があり、また、館城跡北辺は、自然の沢状地形が外郭線の役割を果たした可能性が大きいことが分かってきました。

この調査の発掘調査報告書は、平成 24 年 3 月に刊行予定です。

館城跡の外郭線に関する発掘調査は平成 24 年度も継続し、その後、これまでの調査成果に基づいて現地での整備作業を進める予定になっています。

この遺跡についてのお問い合わせは **厚沢部町教育委員会事務局社会教育係** まで  
(担当：石井)  
☎ 0139-64-3311 (内線 80)  
電子メール：kyoui-syakai@town.assabu.lg.jp

この遺跡をもっと知りたい方は **厚沢部町郷土資料館** まで  
開館時間：9:00～17:00  
休館日：月曜・祝日  
住所：檜山郡厚沢部町新町 234-1  
☎ 0139-64-3311 (内線 80)  
電子メール：kyoui-syakai@town.assabu.lg.jp

調査理由：土地造成（予定）  
調査地：旭川市近文町20丁目  
調査主体：旭川市教育委員会  
調査期間：平成23年6月13日～10月28日  
調査面積：2,867 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

近文町5遺跡は、土地造成(予定)に伴い、平成22年度に実施された埋蔵文化財包蔵地範囲確認調査によって、新規に発見されました。

遺跡の所在する近文地区は、上川盆地のほぼ西端にあり、近文オーホツナイ川、オホーツナイ川、ウップツ川等の小河川によって形成された沖積地であり、これらの河川が石狩川に合流する地域です。上川盆地内でも遺跡の分布密度が高い地区であり、特に上述の小河川沿いに集中します。なかでも擦文文化期の遺跡が多く所在し、上川盆地内の擦文文化期の集落遺跡は、ほとんどこの地域において確認されています。擦文文化が生業をサケ漁に依存し、産卵のため遡上する小河川が集中している事が、その理由と考えられています。

検出された遺構は、20基の焼土、9基の炭化物集中、8カ所の土器集中、2カ所の石器集中、2カ所の礫集中、3基の土坑等です。焼土、炭化物集中と、各種の遺物集中は、焼土を中心として分布し、これらの遺構に有機的な関係があったものと考えられます。また、遺跡内では、数本の自然流路も確認されています。

遺物は、擦文文化期初頭のものが大多数を占め、自然流路の中から僅かに擦文文化後期の遺物が出土しています。

近文町5遺跡の特徴は、石器の多さにあります。2基の石器集中からは、黒耀石製の搔器が多数出土しました。

報告書は、平成24年3月末の刊行を予定しています。



完掘状況（上が南西）



石器集中1（部分拡大）

調査理由：土地造成（予定）  
調査地：旭川市近文町22丁目  
調査主体：旭川市教育委員会  
調査期間：平成23年6月13日～10月28日  
調査面積：4,169 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

近文町6遺跡は、土地造成(予定)に伴い、平成22年度に実施された埋蔵文化財包蔵地範囲確認調査によって、新規に発見されました。

遺跡の所在する近文地区は、上川盆地のほぼ西端にあり、近文オーホツナイ川、オホーツナイ川、ウツペツ川等の小河川によって形成された沖積地であり、これらの河川が石狩川に合流する地域です。上川盆地内でも遺跡の分布密度が高い地区であり、特に上述の小河川沿いに集中します。なかでも擦文文化期の遺跡が多く所在し、上川盆地内の擦文文化期の集落遺跡は、ほとんどこの地域において確認されています。擦文文化が生業をサケ漁に依存し、産卵のため遡上する小河川が集中している事が、その理由と考えられています。



完掘状況（上が北西）



出土土器

左：近文町6遺跡出土土器  
右：緑町4遺跡出土の類似土器

検出された遺構は、5基の竪穴住居址、2基の焼土、12基の土坑等です。また、遺跡内では、2本の自然流路も確認されています。竪穴住居址にはカマドを持つものと、持たないものがあります。

遺物は、擦文文化期初頭のものが大多数を占めています。出土した土器は、北大式に特徴的な列点を文様構成に持ち、底部の張り出し、歪な波状を呈する口縁上面観なども、古い様相を示しているものと考えられます。歪な波状を呈する口縁を持つ土器は、カマドを持たない住居址から出土し

ました。

報告書は、平成 24 年 3 月末の刊行を予定しています。

調査理由：詳細分布（保存目的の測量・確認調査）

調査地：中川郡中川町佐久 国有林 1012 林班 う小班、1013 林班 お小班

調査主体：中川町教育委員会

調査期間：平成 23 年 10 月 27 日～11 月 10 日（測量調査：10 月 22 日～）

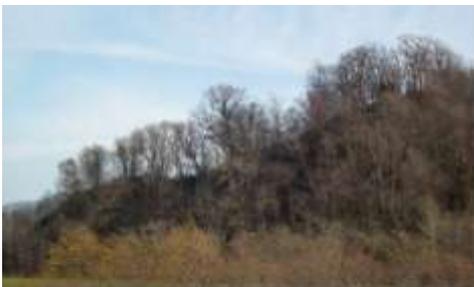
調査面積：26 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

オフィチャシ跡は、中川町佐久付近で天塩川と合流する安平志内川右岸段丘上に位置する、天塩川水系最大のチャシ跡です。丘陵北端は国道造成時に掘削されていますが、現存する丘陵先端部から尾根の頂上部まで約 90m、天塩川水面からの比高は約 35m あります。チャシ跡には階段状に 3 つの面がみられ、主体部を囲むように幅約 4.5m、深さ約 1.5m の 1 条の大規模な壕が U 字形にめぐっています。北海道教育委員会の埋蔵文化財包蔵地調査カード(昭和 59 年)には、レイカの部分や丸太橋的な倒木についても記載されていますが、これまで発掘調査は行なわれておらず、壕以外の遺構は明らかになっていませんでした。

今回の調査では、チャシ跡の全体像を把握するための詳細測量と、遺溝の形態や規模、時代性を確認するための試掘が実施されました。地形測量では、主体部を囲む壕が、地すべり地形を利用して掘削されたのではないかと推定されたほか、これまで未確認だった平坦面や壕のような構造が確認されましたが、まわりに地すべり地形もみられることから、これら新たな遺構の認定には、より慎重な判断が必要とされます。

試掘調査では、第一平坦面から炭片が発見されました。また、主体部を囲む壕の断面が底幅 60cm ほどの逆台形となることが確認され、その底部で発見された火山灰が、(財)北海道埋蔵文化財センターの花岡氏の分析により、樽前山起源の Ta-a (A. D. 1783) に対比されたことから、オフィチャシ跡の形成は、少なくとも 18 世紀末までさかのぼることが明らかとなりました。さらに、壕の下側では、柵跡と推定される幅 30cm、深さ 40cm の溝が確認されました。



オフィチャシ跡遠景



壕とメンテナンス

この遺跡についてのお問い合わせは

中川町エコミュージアムセンター まで

☎ 01656-8-5133 Fax 01656-8-5134

電子メール ; [kubinaga@hokkai.or.jp](mailto:kubinaga@hokkai.or.jp)

中川町の遺跡をもっと知りたい方は **中川町エコミュージアムセンター** まで

住 所：〒 098-2626 北海道中川郡中川町字安川 28-9

開館時間：9:30～16:30

閉 館 日：月曜日・年末年始・冬期間；11月～翌年4月要問合せ

URL； <http://city.hokkai.or.jp/~kubinaga>

調査理由：学術研究  
調査地：枝幸郡枝幸町目梨泊 5377  
調査主体：枝幸町教育委員会  
調査期間：平成 23 年 8 月 18 日～8 月 30 日  
調査面積：30 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

目梨泊遺跡は、国指定名勝ピリカノカの一つ、「神威岬」を望むオホーツク海に面した段丘上にあります。目梨泊遺跡はオホーツク文化を代表する遺跡の一つであり、出土品の一部は平成 12 年に国の重要文化財に指定されました。

枝幸町教育委員会では、札幌大学文化学部の川名広文ゼミと共同して学術調査を進めており、これまでの調査で海岸線にまで遺構が広がっていることが分かってきました。

平成 22 年度の調査ではオホーツク人の「生活面」が見つかり、オホーツク式土器や黒曜石の剥片、焼けた骨など様々な遺物が見つかりました。今回の調査で引き続き「生活面」を精査したところ、20 本以上の柱穴が確認され、しっかりとした上屋が存在したことが明らかになりました。一方で、囲炉裏や壁が見つからないので、竪穴式住居とは考えにくい状況です。また、この生活面から崖下の海岸に向かって、大きな排水溝が掘られていることも分かりました。排水溝はV字形の断面をしており、石や鯨の脊椎骨で補強しています。排水溝の底からは「ソーメン文」を廻らせた土器片がいくつも見つかりました。

類例がないため、どのような遺構か判断するのは困難ですが、海岸という立地と排水溝の存在から考えて、海産物を加工する「作業場」のような使い方をされていたのかもしれない。また、生活面からは熱を受けて割れた石錘がいくつか見つかり、何らかの儀礼的行為が行われた可能性もあります。

報告書は、平成 24 年度の調査完了をまって刊行したいと考えております。



調査区の状況



熱を受けて割れた石錘

目梨泊遺跡をもっと知りたい方は **オホーツクミュージアムえさし** まで  
住所：枝幸郡枝幸町三笠町 1614-1 ☎ 0163-62-1231  
休館日：毎週月曜日・月末の火曜日・祝日

調査理由：史跡整備

所在地：網走市北1条東1丁目ほか

調査主体：網走市教育委員会

調査期間：平成23年4月15日～5月31日

調査面積：89 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

網走市では、平成15年度より史跡最寄貝塚の整備事業の一環として、発掘調査を実施しています。平成23年度は、「モヨロ貝塚ガイダンス施設・遺構保存公開展示施設」建設に先立ち、平成18・19年度にモヨロ貝塚館前で検出された墓壇について、調査を実施しました。この調査内容をもとに、施設内に墓壇の復元整備を行います。

調査は、施設の建設部分と重複する墓域の部分から、墓壇上面の状況や展示構成などを考慮して、6基の墓壇を選択して実施しました（写真1）。

墓は、おおむね120 cm×70 cmほどの隅丸方形ないし長楕円形で、深さ40 cmほどの土壇墓です。墓からは、手足を折り曲げた人骨と、頭にかぶせられた土器が出土し、オホーツク文化の墓に特徴的な埋葬のありかたを確認することができました（写真2）。副葬品としてはほかに鉄製の鉾ほこや刀なども出土しています。墓の年代は、土器の文様から貼付文期にあたり、当該墓域がオホーツク文化期のうちでも新しい時期に形成されたものであることが確認できました。

モヨロ貝塚では、これまで住居跡北側の範囲を中心に古い時期の墓が多く見つかっていましたが、



写真1 調査区

過年度の調査結果や今年度の調査によって、次第に住居跡南側、砂丘の先端部も利用するようになるという、遺跡の空間利用の傾向をとらえることができました。



写真2 検出状況

きたみし きたかみ いせき  
北見市 北上2遺跡 (登載番号 I-02-59)

調査理由：開発事業（道路）  
調査地：北見市北上 180、181、403-2～5  
調査主体：北見市教育委員会  
調査期間：平成 23 年 5 月 18 日～8 月 31 日  
調査面積：2,230 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

北上2遺跡は、北見盆地の南西部、常呂川と訓子府川にはさまれた台地の縁に位置しています。この台地は通称「広郷台地」と呼ばれ、旧石器時代の遺跡が多数所在することで知られています。台地上は比較的平坦な地形で、畑が広がっています。包含層が浅いこともあり、遺跡には耕作による攪乱が相当及んでいます。今回の調査は、砂利道の拡幅・舗装化に伴うもので、このため調査区域は、道路直下を中心とした細長い形になりました。通行確保のため、現場では道路の片側を半分ずつ掘る形で調査を進めました。掘り下げていくと、砂利道の下には水道管が2本敷設されており、畑部分も含め、包含層の残存状態が良好な範囲は、予想よりかなり少ない状況でした。

調査の結果、明瞭な遺構は検出されませんでした。遺物集中スポットが3カ所、焼土が3地点で認められました。人為的に火を使った跡の可能性のあるのは1カ所だけで、ここは遺物集中スポットともオーバーラップしていました。



北上2遺跡位置図



調査区域全景



遺物出土状況

出土遺物は約 15,000 点、土器は縄文早期の破片が 1 点だけで、あとはすべて黒曜石・安山岩などの石製遺物です。遺物のほとんどは後期旧石器時代の最終末あたりに属すると思われませんが、素材を割って石器を製作していく技術・技法の差から、複数の時期にわたることも想定されます。

主な出土石器は尖頭器、搔器、彫器などですが、石器の量が少ないこと、石器でも成型されたものがさらに少ないことが、この遺跡の大きな特徴といえます。成型された石器は、使用するため、よそに持ち出されてしまったのでしょうか。また、北見周辺では石器材料として黒曜石の比率が高いのですが、当遺跡では安山岩の破片が目立ちます。周囲で安山岩の重量比が高い遺跡はほかにありません。このように当遺跡は、時間差は別にして、周囲の遺跡とは残された石器の量が少ないこと、安山岩の重量比が高いことが、相違点となっています。

報告書は、整理作業を進めて、平成 24 年度末に刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは **北見市教育委員会文化財課** まで  
☎ 0157-23-6742

びほろちょう たかの いせき  
美幌町 高野3遺跡 (掲載番号 I-06-73)

調査理由：開発事業（土砂採取）  
調査地：網走郡美幌町字高野 72  
調査主体：美幌町教育委員会  
調査期間：平成 23 年 5 月 11 日～9 月 13 日  
調査面積：1,090 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

高野3遺跡は、美幌町市街地より北西に4kmほど離れた木禽川の左岸、台地から張り出した尾根上に立地しています。この遺跡は、平成14年に試掘調査を実施した際、試掘ピットからフレイクやチップが出土したことにより確認されました。

今年度の調査では、土壙墓1基、土壙7基、焼土5ヵ所の遺構が検出されています。このうち、土壙墓からは、副葬品として続縄文時代の土器（後北C<sub>2</sub>・D式）、黒曜石で作られた石鏃やナイフが出土しています。土壙、焼土については遺物が伴っていないため、その時代などは明らかになっていません。

出土遺物の総数は76,751点を数え、その内訳は土器99点、剥片石器類76,596点、礫石器類56点でした。土器は縄文時代早期（東釧路IV式）や中期（北筒II式）のものが出土しており、剥片石器類の多くは石器製作の際のフレイク・チップです。定形的な石器では、石鏃、石匙、削器、敲石等が少量出土しています。

本遺跡の発掘調査報告書は、平成24年3月に刊行予定です。



土壙墓完掘状況



土壙墓出土土器

この遺跡についてのお問い合わせ  
美幌町の遺跡をもっと知りたい方は **美幌博物館** まで  
住所：美幌町字美禽 253-4  
☎ 0152-72-2160

びほろちょう こまおい いせき  
美幌町 駒生7遺跡 (掲載番号 I-06-123)

調査理由：開発事業（土砂採取）

調査地：網走郡美幌町字駒生 86-10、108-1

調査主体：美幌町教育委員会

調査期間：平成23年8月18日・9月13日

調査面積：41 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

豊岡4遺跡は、美幌町南東部、駒生川の右岸丘陵に立地しています。現況は山林です。

今年度の調査は、火山灰採取事業に伴い、遺跡の有無や範囲を確認する目的で、試掘調査を実施しました。調査の結果、調査区北側の試掘ピットから、黒曜石のフレイクが8点出土しました。遺跡の主体部は、今回の開発事業範囲の外側に広がっているものと考えられています。



駒生7遺跡 位置図



駒生7遺跡 近景

この遺跡についてのお問い合わせ

美幌町の遺跡をもっと知りたい方は **美幌博物館** まで

住所：美幌町字美禽 253-4

☎ 0152-72-2160

調査理由：開発事業（国道改良）

調査地：斜里郡斜里町字峰浜国道敷地内

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成23年9月1日～11月5日

調査面積：1,170 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

カモイベツ遺跡は、北緯 43° 55′ 31″ 東経 144° 47′ 22″ 付近、オホーツク海に面する峰浜市街地から西方約 2 km 地点の海岸砂丘上に立地しています。遺跡の南側には営農活動により削平された丘陵地と低湿地が広がっており、過去にも発掘調査が実施されています。

今年度は一般国道 334 号線の道路中央帯設置工事に伴い、道路の北側を調査しました。調査区は海岸線に沿う砂丘列の一部にあたり、主に続縄文時代前期と後期の遺構や遺物が出土しました。砂丘の堆積層を観察すると、上部と下部で、形成された時代が明確に分かれており、砂丘上部では続縄文時代後期の後北 C<sub>2</sub>-D 式期（1,700 年前頃）の遺構や遺物、砂丘の下部では続縄文時代前期の宇津内 II a 式期（2,200 年前頃）の遺構や遺物が見つかりました。遺構は、続縄文時代前期の集石 6 基、石組炉 1 基、焼砂跡 2 基、ベニガラ散布範囲 2 基、土坑 5 基、続縄文時代後期の墓坑 1 基、集石 1 基、石組炉 1 基、廃棄場遺構 1 基、ベニガラ散布範囲 1 基、土坑 3 基、小穴 1 基、アイヌ文化期の小穴 2 基の合計 27 基です。

このうち、墓坑は再葬墓と呼ばれる形態のお墓です。今回の調査では、一度埋めた 3 体分の人骨を墓の中から掘り出した後、深い穴をまた埋め戻して新たに浅い穴を掘り、そこに頭蓋骨や四肢骨などの遺骸を再埋葬した状態を確認することができました。骨盤や椎骨などの部分は、ほとんど残っていませんでした。分解して土中にとけてしまったか、取り出されて別の場所に埋葬されたのかもかもしれません。副葬品は墓坑の下部から見つかったガラスビーズ 5 点です。

遺物は、続縄文時代後期の後北 C<sub>2</sub>-D 式土器と、続縄文時代前期の宇津内 II a 式土器が多く、この他に、鈴谷式土器やオホーツク式土器の破片と装飾品が僅かに出土しています。



発掘調査風景



続縄文後期（墓坑）人骨出土状況

装飾品は、続縄文時代後期の遺物包含層から見つかった平玉です。町内では、尾河台地遺跡 13 号墓から出土した平玉とよく似ています。遺物の出土点数は合計 9,712 点です。

この遺跡についてのお問い合わせは

**斜里町立知床博物館**

☎ 0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

**斜里町埋蔵文化財センター**

☎ 0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

しやりちよう しゆえん いせき  
斜里町 朱円 2 遺跡 (登載番号 I-08-37)

調査理由：開発事業（農業関連・用水路）  
調査地：斜里郡斜里町字朱円西 83-1、84-1・3  
調査主体：斜里町教育委員会  
調査期間：平成 23 年 5 月 14 日～8 月 12 日  
調査面積：1,811 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

朱円 2 遺跡は、北緯 43° 53′ 39″ 東経 144° 44′ 34″ 付近、奥薬別川と飽寒別川に挟まれた台地上に立地しています。台地の中央部は一段低くなっており、そこに無名の小河川を整備した用水路が流れています。

今回の調査は、この小河川の両岸低地部と台地の一部が対象となっています。台地部の調査区では、台地の斜面部分を除くと、遺物包含層のほとんどが営農活動によって削平されていましたが、東側の台地上において、縄文時代前期の竪穴住居跡 6 棟、土坑 4 基、小穴 2 基、縄文時代中期の土坑 2 基の計 14 基の遺構を検出し、調査しました。また、低地部の調査区では、摩周 b<sub>5</sub> 降下軽石（980 年前頃）と、営農活動によって埋め立てられた土砂に覆われた状態で、擦文時代以前の旧河川跡が見つかりました。

遺物は、主に縄文時代前期（朱円式土器・5,000～5,100 年前頃）の土器が主体で、この他に縄文時代早期（東釧路Ⅲ式・Ⅳ式、）、縄文時代前期（網走式）、縄文時代中期（トコロ 6 類）、縄文時代後期（堂林式）、縄文時代晩期（緑ヶ岡式）の土器が見つかりました。遺物の出土点数は、土器 596 点、石器 6,166 点、礫 1,863 点、その他 570 点の合計 9,195 点でした。



発掘調査風景



縄文時代前期の竪穴住居跡

この遺跡についてのお問い合わせは

斜里町立知床博物館

☎ 0152-23-1256

ホームページ

<http://shir-etok.myftp.org/>

斜里町埋蔵文化財センター

☎ 0152-23-2017

ホームページ

<http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

## 斜里町 オクシベツ 6 遺跡 (登録番号 I-08-135)

調査理由：開発事業（農業関連・用水路）

調査地：斜里郡斜里町字朱円 16-1・3

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 23 年 8 月 13 日～8 月 31 日

調査面積：100 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

オクシベツ 6 遺跡は、北緯 43° 54′ 43″、東経 144° 45′ 35″、町道峰浜 1 号道路と同朱円東 4 線道路の交差点付近に所在する遺跡です。遺跡西側には奥薬別川が流れており、調査区内でもその旧流路が検出されています。

遺構としては、焼土ないし焼土群 9 基を検出しました。いずれも縄文時代中期トコロ 6 類期の遺構と考えられます。焼土群のうち 1 基は、半円形に焼土・木炭が分布しており、平成 19 年度調査における PIT20 に類似する、平地住居跡であると考えられます。同一面からは剥片 8 点が折り重なって出土しました。1 点を除くと非常に良く似た質の黒曜石で、同一母岩の剥片である可能性が高いと考えています。また、別の焼土跡からは獣骨片が多く出土しており、こちらは屋外炉であると考えられます。

遺物は、総数 2,555 点で、内訳は土器片 258 点、石器(製品・石核)109 点、石器(剥片・碎片)2,118 点でした。土器片はいずれも縄文時代中期のもので、型式同定可能な破片はいずれもトコロ 6 類でした。剥片石器はいずれも黒曜石製ですが、石核・剥片・碎片では頁岩や安山岩が目立ち、石核は 5 点中 3 点が安山岩、剥片は 658 点中 109 点が頁岩(16.6%)、同 68 点が安山岩(10.3%)でした。



平地住居跡検出状況



剥片石器集中出土状況

この遺跡についてのお問い合わせは

**斜里町立知床博物館**

☎ 0152-23-1256

ホームページ

<http://shir-etok.myftp.org/>

**斜里町埋蔵文化財センター**

☎ 0152-23-2017

ホームページ

<http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

調査理由：開発事業（農業関連・用水路）

調査地：斜里郡斜里町字峰浜 80-1

調査主体：斜里町教育委員会

調査期間：平成 23 年 11 月 8 日～11 月 17 日

調査面積：167 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

ポンシュマトカリペツ 16 遺跡は、北緯 43° 55′ 32″、東経 144° 48′ 06″、町道峰浜 10 線道路の東側に所在する遺跡です。遺跡は東側の丘陵部から続く斜面と低地の境界付近に位置し、遺跡内を現マクシベツ川が流れています。周辺には昨年度調査のポンシュマトカリペツ 1 遺跡や峰浜海岸 1 遺跡等が所在し、分布調査ではそれらの遺跡とほぼ同時期である縄文時代中期や晩期の遺物が採集されました。

遺構は検出されませんでした。旧マクシベツ川ないしはマクシベツ川の支流と推定される旧流路を検出しました。流路底面近くからも薪ストーブや陶器などのゴミが出土しており、完全に埋没したのはごく最近であることがわかりました。

遺物は、現場での取り上げ点数で土器 15 点、石器 42 点、礫 2 点、種子 1 点でした。縄文時代の遺物包含層は耕作によって削平されており、出土遺物の大半は旧流路内で出土しました。土器は 1 点のみ縄文時代早期で他は中期でした。表土・表採遺物には相当数の早期土器が含まれています。石器では、黒曜石製石鏃、尖頭器、削器、搔器、調整剥片、角閃石製・青色片岩製磨製石斧及び、敲石等の礫石器等が出土しました。



発掘調査風景



旧河川流路跡完掘状況

この遺跡についてのお問い合わせは

**斜里町立知床博物館**

☎ 0152-23-1256

ホームページ <http://shir-etok.myftp.org/>

**斜里町埋蔵文化財センター**

☎ 0152-23-2017

ホームページ <http://www13.ocn.ne.jp/~siretoko/>

むろらんし しせき ひがしえぞちなんぶはんじんやあと モロラン陣屋跡

(登載番号 J-01-9)

調査理由：史跡整備

調査地：室蘭市陣屋町2丁目5-1～6

調査主体：室蘭市教育委員会

調査期間：平成23年10月17日～10月21日

調査面積：42 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

史跡東蝦夷地南部藩陣屋跡モロラン陣屋跡は、幕末の安政3年(1856)に南部藩により沿岸防衛のため築かれた近世陣屋跡です。天然の良港である室蘭港を望むペケレオタ(現在の陣屋町)の段丘上に位置し、方形に区画された二重の土塁と濠、そして当時藩士たちによって植えられた杉林からなる史跡です。



史跡遠景 (中央やや右の杉林が史跡)

平成23年度の調査は、史跡を保全するため排水管などを整備するのに先立ち、史跡整備の一部として実施し、掘削予定箇所<sup>1</sup>に9つの調査区を設け、土層の堆積状況や遺構等の有無を確認しました。



検出された土塁

これまでの土地利用や昭和40年代の史跡整備により、元々の堆積状況が改変されている箇所もありましたが、それぞれの地点での調査結果は、今後、史跡を管理していく上で重要な基礎情報となるものです。なかでも土塁の近くに設けた調査区では、南部藩士たちによって造られた元々の土塁を一部検出することができました。

また、陣屋が造られたころのものではありませんが、縄文期の石器を2点検出しています。

この遺跡についてのお問い合わせは **室蘭市教育委員会** まで

☎ 0143-22-5094

メールアドレス：syougaigakusyuu@city.muroran.lg.jp

室蘭市の遺跡をもっと知りたい方は **室蘭市民俗資料館** まで

住 所：室蘭市陣屋町2丁目4番25号

☎ 0143-22-5094

開館時間：10:00～16:00

閉館日：月曜日・年末年始、1月20日～3月19日まで

ホームページ：<http://www.city.muroran.lg.jp/main/org9420/tontentop.html>

調査理由：開発区域詳細

調査地：苫小牧市字柏原 39-1、41-1、44-1・8、45-4、80-1、84-2 ほか

調査主体：苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査期間：平成 23 年 6 月 1 日～平成 23 年 7 月 24 日

調査面積：2,079 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

調査地は、苫小牧市の東部に位置する苫東開発地域内柏原地区の道道静川美沢線と東部 2 条通に挟まれた、標高17mほどの丘陵部です。調査地及び周辺では、中沢遺跡、柏原 8・15・20・21・22遺跡の所在が知られています。調査は幅1.5m、長さ 6 mの試掘穴を30m間隔で231カ所掘開し、27カ所の試掘穴から土器・石器等513点のほか、落とし穴 1 基が確認され、新たに 4 遺跡が発見されています。また、調査区内に位置していた中沢遺跡については、今回発見された柏原41遺跡に相当することが分かり、登録を抹消しています。

柏原39遺跡では10カ所の試掘穴から、縄文時代前・中期の土器16点、石器等143点、柏原40遺跡では 7 カ所の試掘穴から、縄文時代前期の土器 2 点、石器等23点が出土し、柏原41遺跡では 3 カ所の試掘穴から、石器等11点が出土、時期は縄文時代前期と思われます。柏原42遺跡では 1 カ所の試掘穴から、落とし穴が 1 基確認されています。周知の遺跡である柏



遺跡位置図

原8遺跡では7ヵ所の試掘穴から、縄文時代中期・晩期、続縄文時代の土器230点、石器等88点が出土し、遺跡の範囲を確定しました。多量の焼骨片も見つかっています。また、柏原40遺跡からはエゾタマキガイの貝殻1点が見つかっており、貝塚が存在する可能性があります。

苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は **苫小牧市埋蔵文化財調査センター** まで

住 所：苫小牧市末広町3丁目9番7号

☎ 0144-35-2552

閉館日：月曜日・祝日・年末年始

伊達市 <sup>だてし</sup>カムイタプコプ<sup>したいせき</sup>下遺跡 (登録番号 J-04-89)

調査理由：学術研究

調査地：伊達市向有珠町 203-1

調査主体：伊達市教育委員会

調査期間：平成 23 年 9 月 12 日～9 月 17 日

調査面積：40 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

伊達市カムイタプコプ下遺跡は、平成 22 年度に実施された北海道開拓記念館添田雄二学芸員による地質学調査の際に、新たに発見された遺跡です。発見時に、遺跡には 1640 年の駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と近世アイヌ文化期の畠跡と貝塚があることがわかりました。

そこで、本年度からは北海道開拓記念館と伊達市噴火湾文化研究所が合同で、近世アイヌ文化期の人々の暮らしと自然環境の変化との関係を明らかにするため、学術調査を開始しました。なお、本研究は科学研究費助成事業「北海道における小氷期最寒冷期の実態とアイヌ民族との関係」（研究代表者：添田雄二）により実施しています。

発掘調査は、1 区と 2 区に分け実施しました。1 区は、昨年度に地質調査を行った部分を 4×8m に拡張したもので、有珠 b 火山灰（1663 年降下）の上で近世アイヌ墓を 2 基、火山灰の下から畠跡と住居跡（チセ）1 軒を検出しました。2 区は、1 区から南に 20m 離れた場所に 2×2m の範囲で設定したもので、有珠 b 火山灰の下で貝塚を検出しました。

住居跡にはチセの特徴である大小 1 対の炉跡があり、周辺から銅製のヤジリや鉄製釣針などの生活用具が出土しました。規模は、来年度に柱穴を見つけて確定する予定です。アイヌ文化期の住居跡の発見は、道南地方では初めてのことであり、これまで不明だった住居と畠や墓、貝塚との位置関係など、ムラの具体的な様子を明らかにできる可能性が出てきました。



写真手前がチセの炉跡。奥の土層断面には畠の畝が見える。

なお、発見された 2 基の墓は、発掘せずに位置だけを記録し、そのまま現地で保存す

ることにしました。これは保存可能な近世アイヌ墓は極力残したいという調査者の総意であり、アイヌ協会有珠支部とも相談の上決めたことです。

来年度は 10 月以降に調査を行う予定ですので、ぜひ見学にいらしてください。

この遺跡についてのお問い合わせは **伊達市噴火湾文化研究所** まで

☎ 0142 - 21 - 5050

伊達市の遺跡をもっと知りたい方は **史跡北黄金貝塚公園** まで

☎ 0142 - 24 - 2122

<http://www.funkawan.net/ktgn.html>

開館時間 9:00～17:00

(4月1日～11月30日まで期間内無休)

調査理由：遺跡の範囲確認調査・C地点貝塚の内容確認

調査地：伊達市北黄金町75

調査主体：伊達市教育委員会

調査期間：平成23年6月1日～10月31日

調査面積：124 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

北黄金2遺跡では、昨年に引き続き、北黄金貝塚の追加指定に関わる発掘調査を行いました。本遺跡では、53年前に伊達高校の教諭であった峰山巖率いる、同高校の郷土研究部によって部分的な発掘が行われ、縄文前期の貝塚の存在が確認されています。

昨年度は、土坑墓や盛土遺構、新たな貝塚といった発見が相次ぎましたが、平成23年度の調査では、遺跡や貝塚、盛土遺構のより詳細な範囲を確定しました。

分布調査では、20m×20mの大グリットを設定し、その交点を1m×1mの区画で試掘を行っています。貝塚については、主に1m×2.5mの区画で内容確認調査を行いました。また、貝塚と盛土遺構の範囲は、トレンチ調査によって確認しました。

今年度と昨年度の調査結果から、調査対象区およそ50,000 m<sup>2</sup>を遺跡の分布域と判断しましたが、より詳細な遺跡の範囲確認のため、西と東側に調査区を拡大して調査を行ったところ、西側では遺物包含層の拡がりを確認し、東側では宅地造成により攪乱されている箇所も多く、包含層が残されていないことを確認しました。

貝塚の調査では、その範囲が東西に約60m、南北に約20mにわたることが判明しています。貝塚の内容調査では、地表面から約2m、貝層面から約1.7mの深さまで掘り下げました。貝塚を1層ごとに掘り下げていくと、貝層と貝層の間に暗茶褐色土層が必ず入り、その暗茶褐色土層では、シカの頭骨2個体分と土器集中、灰集中がまとまって出土するなど、シカなどの獣骨集中や土器集中、被熱礫、灰集中といったものが大量に出土する傾向がみられました。

出土する土器は、円筒下層a、b式相当および静内中野式相当といった縄文前期のもので、胎土に貝殻を砕いて入れた珍しい土器もありました。石器では、石鏃、つまみ付ナイフ、石斧、石錐、北海道式石冠、石のこ、骨角器では、ヤスや刺突具、ペン先型の銚等が出土しています。



C地点貝塚南側断面

左側の深い部分で土器片が集中的に出土している。

盛土遺構は、東西に約 80m、南北に約 25mの範囲に拡がることがわかりました。出土遺物は、土器、石鏃、つまみ付ナイフ、石斧等です。

なお、調査は今年度で終了する予定でしたが、貝塚の規模（深さ）が予想以上に大きかったため、来年度も貝塚の内容調査を継続する予定です。平成 24 年度は、貝塚を掘り抜くとともに、動物儀礼の解明や動物遺存体のデータ分析、年代測定などを課題に、6 月 1 日から 7 月 31 日までの期間、調査を予定していますので、北黄金貝塚と併せて、ぜひ見学にお越しください。

この遺跡についてのお問い合わせは **伊達市噴火湾文化研究所** まで

☎ 0142 - 21 - 5050

伊達市の遺跡をもっと知りたい方は **史跡北黄金貝塚公園** まで

☎ 0142 - 24 - 2122

<http://www.funkawan.net/ktgn.html>

開館時間 9:00～17:00

(4 月 1 日～11 月 30 日まで期間内無休)

調査理由：詳細分布（範囲確認）

調査地：虻田郡洞爺湖町栄町 20-1 ほか

調査主体：洞爺湖町教育委員会

調査期間：平成 23 年 8 月 22 日～12 月 26 日

調査面積：149 m<sup>2</sup> (63 m<sup>2</sup>・86 m<sup>2</sup>)

## 調査の概要

調査は、平成 21 年度から続く「史跡入江・高砂貝塚」の周辺における遺跡の広がりや内容を把握するための調査で、平成 21 年度は主に高砂貝塚周辺、平成 22 年度は入江貝塚周辺について調査を実施してきました。最終年となる平成 23 年度は、史跡の南北に流れる板谷川及び赤川流域と台地下に広がる低地を中心に調査を実施しました。

調査では、1m×2mのテストピット 86 ヲ所と 1m×5mのテストピット 3 ヲ所の、合わせて 89 ヲ所のテストピットを設定し、遺構や遺物の有無を確認しました。

栄遺跡は、史跡入江・高砂貝塚の北を流れる赤川右岸の、標高 12～16m の台地上に立地し、ここからは溝状遺構 4 ヲ所・柱穴 12 基・焼土 2 基が検出されました。遺物では、縄文土器（入江式）・擦文土器、石鏃などの石器が出土しています。溝状遺構は、4 ヲ所のテストピットから検出され、「コ」の字状に繋がることから、「チャシ」の壕である可能性が考えられます。そしてその時期は、壕の覆土に駒ヶ岳 d 火山灰（1640 年降灰）の堆積が認められたことから、1640 年以前のものであることがわかります。また、駒ヶ岳 d 火山灰が覆土の上層に堆積していることなどから、中世のものである可能性も考えられます。

板谷川左岸遺跡は、史跡入江・高砂貝塚の南に流れる板谷川の左岸に立地しており、円筒下層 d 式を中心とした土器片が出土しました。遺構は検出されていませんが、1663 年の有珠山噴火に伴う火山弾の着弾跡（インパクトクレーター）が多数確認されています。

こうした調査の結果、入江・高砂貝塚の範囲は、赤川と板谷川の外に広がらないこと、また遺跡の重要部分もすでに指定されている範囲に収まることがわかりました。

報告書は、今年度刊行する予定です。



壕の検出されたテストピット



壕の発掘状況

この遺跡についてのお問い合わせは **入江・高砂貝塚館** まで

住 所：〒049-5605 虻田郡洞爺湖町高砂町 44

電 話：0142-76-5802

開館期間：4月～11月

開館時間：9時～17時

洞爺湖町の遺跡をもっと知りたい方は

**洞爺湖町教育委員会社会教育課社会教育グループ** まで

住 所：〒049-5692 虻田郡洞爺湖町栄町 58

電 話：0142-74-3010

調査理由：開発事業（道路）  
調査地：虻田郡洞爺湖町栄町 70-28 ほか  
調査主体：洞爺湖町教育委員会  
調査期間：平成 23 年 10 月 19 日～12 月 26 日  
調査面積：766 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

栄2遺跡は、噴火湾（内浦湾）東岸に面する標高 23m 前後の高台に位置しています。海岸からは約 600m の距離があります。

この遺跡は、平成 22 年 6 月、道々の拡幅工事に伴う範囲確認調査によって発見されたもので、工事を実施する北海道胆振総合振興局と協議を行い、約 700 m<sup>2</sup>について記録保存のための発掘調査を行うことになりました。

調査の結果、竪穴住居跡 1 軒（1 号住居跡）、盛土遺構、焼土 2 基、黒曜石原石集積、石鋸集積、フレイク集中などが検出されました。特に盛土遺構からは、縄文後期中葉のホッケマ式土器が多量に出土しています。包含層から出土する土器もホッケマ式が中心で、石器では、石鏃・ナイフ・石錐・石皿・石鋸などが出土しています。

盛土は、始まりは 1 号住居跡廃絶後の窪みに焼土や炭化物を含む土が投げ入れられたもので、その後も投棄が繰り返されたことにより、住居跡の周囲にまで広がっています。盛土の厚さは、深いところで約 50cm あり、20 個体以上の復元可能な土器が出土しました。盛土は調査区外にまで広がっており、正確な範囲は明らかではありませんが、かなり広範囲にわたって分布するものと予想されます。

今回の調査では、盛土遺構の性格を明らかにすることはできませんでしたが、ホッケマ式期の盛土遺構は、噴火湾沿岸をはじめ道南地方においても検出例が少ないため、貴重な発見となりました。報告書は、今年度刊行する予定です。



1号住居跡



盛土遺構断面

この遺跡についてのお問い合わせは **入江・高砂貝塚館** まで

住 所：〒049-5605 虻田郡洞爺湖町高砂町 44

電 話：0142-76-5802

開館期間：4月～11月

開館時間：9時～17時

洞爺湖町の遺跡をもっと知りたい方は

**洞爺湖町教育委員会社会教育課社会教育グループ** まで

住 所：〒049-5692 虻田郡洞爺湖町栄町 58

電 話：0142-74-3010

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：勇払郡厚真町字幌内 421-2 ほか

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 23 年 5 月 11 日～8 月 31 日

調査面積：3,144 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

オニキシベ5遺跡は、厚真川河口から約 30 km、厚真市街地から北東に約 10 km の位置で、厚真川支流の鬼岸辺（おにきしべ）川左岸、標高約 67m の河岸段丘上に立地しています。

平成 23 年度は、前年度の西側 3,144 m<sup>2</sup> の調査を行いました。時代的には、縄文時代中期中葉から後期前葉までの遺構や土器、石器が出土しており、遺構としては、竪穴式住居跡 1 軒、土坑 10 基、Tピット 12 基、焼土 16 ヲ所、土器集中 16 ヲ所、礫集中 4 ヲ所、獣骨集中 6 ヲ所、フレイクチップ集中 3 ヲ所が検出されています。

段丘縁辺部で見つかった縄文時代後期初頭と考えられる竪穴式住居跡は、長軸 11m、短軸 8.5m、最大深さ 0.3m で、楕円形をしています。この住居は、旧河川の自然堤防を利用して、南側を深く、北側を浅く掘り込んで作られており、住居のほぼ中央には板状の石を「コ」の字型に並べた石組炉も検出されています。住居の周辺には、焼骨片と焼土ブロックの混じった土がいくつか点在しており、住居の石組炉内の焼骨片が少ないことから、炉内の掻き出しをして、周辺に捨てていた可能性があると考えています。

その他の遺構では、縄文時代中期中葉頃の円筒上層 c 式並行期の土器が、土坑からほぼ 1 個体完形の状態で見つかっています。

また、特筆する遺物として、北筒Ⅲ式土器の破片が見つかっています。この土器は主に道東方面で見つかる土器なので、道東との交易を示す資料となっています。



1号竪穴式住居跡



まとめて見つかった円筒上層 c 式土器

この遺跡で検出される遺構のほとんどは、自然堤防の高まりに構築されています。高まりを挟んだ南北の一部には、旧河川堆積物の灰白色シルト層やシルト化した黒色土が堆積しており、縄文時代中期頃には、流れの緩い河川または湿地帯が、間近に存在していたものと思われます。

遺物は、土器 5,123 点、石器 962 点、フレイクチップ 1,852 点、礫 7,991 点で、計 15,928 点が出土しています。昨年の調査と合わせると、オニキシベ 5 遺跡の遺物総数は 31,680 点となります。

この遺跡についてのお問い合わせや 厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

**厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ** まで

☎ 0145-27-2495

メールアドレス : [atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp](mailto:atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp)

調査理由：開発事業（ダム）

調査地：勇払郡厚真町字幌内 114-1 ほか

調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 23 年 5 月 11 日～10 月 31 日

調査面積：4,636 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

ヲチャラセナイ遺跡は、厚真川河口から約 30 km、厚真市街地から北東に約 10km の位置で、厚真川上流域の右岸、支流鬼岸辺（おにきしべ）川との合流点に面し、舌状に張り出した標高約 68～77m の高位河岸段丘面と標高約 58m の低位段丘面に立地しています。平成 23 年度は、高位段丘面の 4,636 m<sup>2</sup>を調査しました。

調査の結果、アイヌ文化期では、土坑墓 1 基が見つっています。土坑墓は、2.2m×0.7m で、深さは 0.5m です。頭蓋骨、上腕骨、歯の一部が残されており、頭蓋骨の位置から、北側に頭を向けて埋葬されたことがわかります。刀子、ニンカリなどの金属製品 6 点が副葬されていました。

縄文時代では、早期、前期、中期、後期の遺物が出土し、縄文時代前期後半が主体となっています。遺構は、竪穴式住居跡が 6 軒、焼土 13 ヲ所、土器集中 3 ヲ所、落とし穴 27 ヲ所などが見つかりました。9 号住居跡は、7.5m×6.9m、深さ 0.6m で、隅丸方形をしていました。落とし穴は、平面が楕円形のタイプと溝状のタイプの二種類があり、落とし穴を掘った際の掘り上げ土が、周囲に残されている例も確認されています。土器は道央の大塚Ⅴ式と、道南系の円筒土器下層 d 式が主体を占めています。また、前年度と同様に、胎土に滑石を含む土器も出土しています。旧石器確認のためのトレンチからは、樽前 d 火山灰下のローム層から、縄文時代早期と考えられる黒曜石製の石鏃が 1 点出土しています。

遺物は総数で約 103,000 点出土しており、金属製品や土器、石器、礫



縄文時代の竪穴式住居跡（右から 8、9、10 号）



落とし穴 (TP-65) と掘り上げ土 (MO-06)

などが含まれます。

発掘調査は次年度以降も継続で、発掘報告書の刊行は平成 24 年以降となります。

この遺跡についてのお問い合わせや 厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

**厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ** まで

☎ 0145-27-2495

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

調査理由：開発事業（道路）

調査地：勇払郡厚真町字吉野 202-4、203-3、206-2、215-2、237-4、239-6 ほか

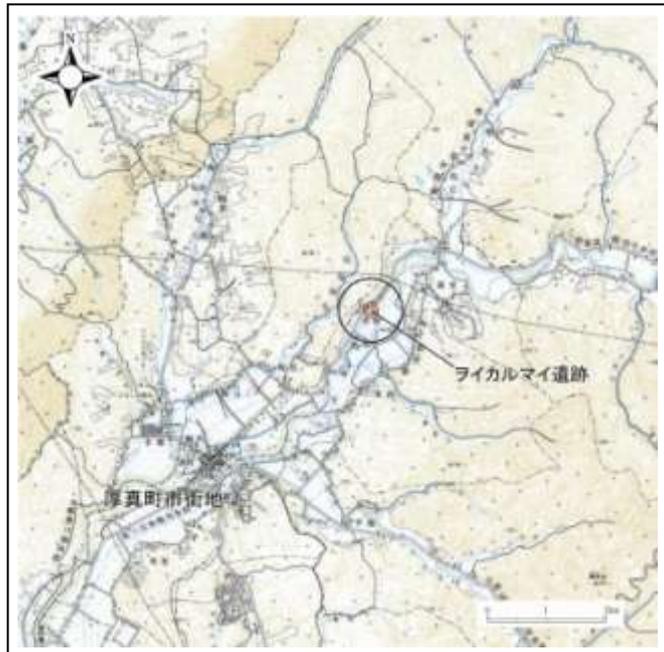
調査主体：厚真町教育委員会

調査期間：平成 23 年 10 月 1 日～平成 23 年 11 月 16 日

調査面積：637 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

ライカルマイ遺跡は、厚真町市街地の北東約 4 km に位置し、厚真川中流域の標高約 26～27 m の低位河岸段丘に立地しています。本遺跡と厚真川の間の中積地には水田が、後背には標高 80 m ほどの山地性丘陵が広がっています。厚真町吉野地区には、明治 17 年に農業入植のため和人が移住しています。また、造材運搬のため、早来（安平町）から厚真町幌内を結ぶ厚真軌道（馬車軌道）が、明治 44 年に敷設されました。昭和 6 年にはガソリン機関車に変わり、同 24 年に廃線となっています。調査は昨年度からの継続で、続縄文時代から近代に及ぶ遺構や遺物を検出しました。近代のものも厚真町にとって貴重な資料であることから、厚真軌道が廃線となる昭和 24 年までを調査対象としています。



遺跡の位置

遺構では擦文時代の土器集中 1 ヲ所、中世アイヌ文化期の獣骨集中 1 ヲ所、近代の建物跡 1 棟、厚真軌道の枕木跡 63 ヲ所、側溝と考えられる溝跡 5 条などが発見されています。

遺物は 3,386 点出土しています。内訳は土器 149 点、礫石器 7 点、礫 196 点、陶磁器類 1,815 点、ガラス製品 448 点、金属製品 611 点、石製品 11 点、木製品 145 点、骨角製品 2 点、革製品 2 点です。

遺物の時期や分布をみると、調査



軌道跡の調査状況

区北東側で続縄文時代の北大式土器片がごく少量出土し、擦文時代では、擦文土器が1個体出土し復元されています。中世アイヌ文化期では、調査区の南西側で、シカの四肢骨や歯が集中した獣骨集中1ヵ所と鉄鍋片などが出土しています。近代では、馬車軌道との新旧関係が分かる溝跡から、多量の遺物が見つかりました。軌道敷設前の地層からは、シカやクマの骨、ウバガイなどの貝殻が少量と、幕末から明治前半の陶磁器・ガラス製品・金属製品などが見つっています。アイヌ文化に伴うと思われる遺物はほとんど見られず、開拓期の和ん文化に係わるものが中心です。陶磁器の器種構成には大皿などが含まれず、ほとんどが生活雑器で占められていることから、農業が軌道に乗るまでの、開拓期の質素な生活ぶりが伺われます。

発掘調査報告書は平成24年度に刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせや 厚真町の遺跡をもっと知りたい方は

**厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ** まで

☎ 0145-27-2495

メールアドレス：atsuma.hakkutsu@bz01.plala.or.jp

しみずちやう みかげへいわいせき  
清水町 御影平和遺跡 (登録番号 L-07-36)

調査理由：開発事業（道路）

調査地：上川郡清水町字羽帯南 4 線 131-24 ほか

調査主体：清水町教育委員会

調査期間：平成 23 年 6 月 21 日～9 月 17 日

調査面積：2,198 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

御影平和遺跡は、清水町市街地から南西に約 5 km 離れた、日高山脈の麓に位置します。南向きの緩斜面上にあり、標高は約 227～233.5m、遺跡の約 12m 南に上小林川が、南西から北東側へ流れています。今回の調査では、二時期の遺構・遺物が確認されました。

一つは、斜面の頂上部周辺に位置する縄文時代早期の遺構と遺物です。曉式という、かつて帯広市から出土した資料を標識とする土器の破片や、黒曜石製の石器が集中する地点が 4 ヶ所、焼土が 1 ヶ所検出されました。周辺に多く見られた 5 mm 程の炭化物を採取して測定を委託し約 8,240～8,270 年前という年代が示されました。石器では、主に石刃素材の彫器や彫器削片が多く出土しました。この時期の土器片と石器群は計 722 点です。



遺跡遠景

もう一つは、斜面の中央から南側（低部）に位置する、縄文時代中期の遺構と遺物です。遺構は、シカを捕るためと思われる落とし穴 3 基と、遺物集中が 1 ヶ所みつかりました。落



落とし穴完掘

し穴は、開口部の長さ×幅が平均 2.27m×0.58m で、深さは平均 1.23m、いずれも長軸（長さ）が北西－南東を向き、等高線に対してほぼ直交しています。この 3 基は、南西－北東方向に横並びになっており、それぞれ 16.5m と 14.7m の間隔があります。落とし穴に遺物は殆どありませんでしたが、1 基には壙底部に炭化した植物遺体が一面に堆積しており、分析を依頼したところ約 4,130 年前のもので、イネ科の稈（わら）であることが判明しました。ほかに、周辺では落とし穴と同時期のものと思われる土器片やつまみ付ナイフが出土しています。この時期の土器片と石器群は計 243 点あります。

本遺跡の東側約 3.5 km に位置する、清水町共栄 3 遺跡からは 32 基の落とし穴が検出され、また、曉式土器は、池田町池田 3 遺跡や新ひだか町駒場 7 遺跡からも出土しており、他地域とのつながりが注目されます。

報告書は平成 23 年度末に刊行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは

**清水町教育委員会** ( ☎ 0156-62-5115 ) まで

調査理由：学術研究

調査地：川上郡標茶町字マサコヤノシマ 1、6-1

調査主体：標茶町教育委員会

調査期間：平成 23 年 9 月 26 日～11 月 9 日（実働 15 日）

調査面積：24.75 m<sup>2</sup>

## 調査の概要

標茶町マサコヤノシマ遺跡は、塘路湖南西の湖岸段丘上にある遺跡です。塘路湖からの高さは約 3 m です。この遺跡は、昭和 40 年頃に行われた水道工事で、多くの遺物が発見され注目されました。そして昭和 43 年に当時釧路市郷土博物館次長であった澤四郎氏が調査担当者となり、標茶町教育委員会により発掘調査が行われました。この時は、遺跡の概要を知るための基礎調査として、主に 2m ないし 1.5m×5m のトレンチが、遺跡内に 3 ヲ所設定され、縄文時代中期～晩期の土器片と、近代由来の柱穴が発見されました。特に釧路管内では発見例の乏しかった縄文後期の土器片が発見されたことと、地名の由来でもある明治期と思われる小屋の柱穴が発見されたことが、大きな成果として上げられます。マサコヤノシマは“柁小屋の島”のことで、明治 18 年に刑務所の一種である釧路集治監が標茶市街に建設された際、ここに建築用木材を柁材に加工する小屋があったと伝えられています。



土器集中状況

(2～3 個体の土器が潰れた状態で出土)



遺跡位置図

(国土地理院発行 1/25000「塘路湖」)

えられています。

標茶の近代史から見ても重要な遺跡ですが、近年遺跡付近の崖が崩れ、土器や石器が塘路湖岸に散逸している状況が見られました。その為、昭和 43 年に実施した調査区の位置を確認し、崩落の可能性がある地点について調査を行ないました。

調査の結果、昭和 43 年調査における第 2 トレンチの位置を確認し、調査区内からは縄文後期の土器、約 800 点が出土しました。その中には、土器が潰れた

ような状態で、集中して見つかる例もありました。出土した土器は、御殿山式が主で、昭和43年調査の際に確認された土器と同じタイプのもので、他に柱穴が17カ所検出されました。柱穴の年代については、上層が攪乱されていて確定できませんが、少なくとも縄文時代以降に作られています。また、柱穴の状況から、時代を別にする、2つ以上の建物があったことが推測されます。

調査は、出土遺物や柱穴の数が予想より多かったため一時中断し、来年度以降も継続して行います。今年度の調査結果は、来年度発行の『標茶町郷土館報告第24号』に概報を掲載し、来年度の調査終了後に、発掘調査報告書を発行する予定です。

この遺跡についてのお問い合わせは **標茶町郷土館** まで  
〒088-2261 川上郡標茶町字塘路1番地12  
☎ 015-487-2332 (担当:坪岡)

ねむろし せきえだに たてあなぐん  
根室市 関江谷 1 堅穴群 (掲載番号 N-01-7)

調査理由：詳細分布

調査地：根室市温根沼 343-1、2

調査主体：根室市教育委員会

調査期間：平成 23 年 7 月 26 日～8 月 5 日

調査面積：14 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

関江谷 1 堅穴群は、根室半島の付け根に位置する温根沼(周囲約 14 km)の北岸、標高 10～13mの台地上に立地します。1954 年に北海道大学の大場利夫先生らが擦文時代の堅穴住居 3 基と縄文時代の貝塚 1 基を調査しており、貝塚中から縄文時代前期の押型文・尖底土器を発掘し、温根沼式土器と名づけました。市内では数少ない縄文具塚であり、なおかつ標識遺跡となっていますが、調査から 50 年以上が経ち遺跡周辺の環境も牧草地から山林に変わり、大場先生の調査地点や遺跡の内容もわからなくなっていることから、遺跡の広がりや内容を確認する目的で、踏査・測量・試掘などの調査を行っています。

一昨年度の調査では、温根沼を臨む遺跡の南西斜面を精査した結果、約 60 m<sup>2</sup>にわたり貝の散ら

ばりを確認しました。また、57 年前の調査トレンチの跡も確認することができました。昨年度は貝塚をもう少し掘り進め、どのような場所に貝塚が作られているのかということを確認しました。その結果、台地上のわずかにくぼ地に、アサリを主体にオオノガイやウバガイなどの貝殻や、カレイ類やニシンなど魚の骨が捨てられて、貝塚が形成されていることがわかりました。



貝層剥ぎ取りの展示状況



調査トレンチの様子

確認しました。その結果、台地上のわずかにくぼ地に、アサリを主体にオオノガイやウバガイなどの貝殻や、カレイ類やニシンなど魚の骨が捨てられて、貝塚が形成されていることがわかりました。

平成 23 年度の調査では、貝塚が形成された時期である縄文時代前期の遺物や遺構が、どこまで広がっているかという観点から調査を行いました。貝塚を中心に南方向と東方向に向かって、幅 50 cm×長さ約 20mのトレンチ(溝)を掘り

ました。その結果、貝塚から東方向のトレンチで集石や縄文時代前期の押型文土器が見つかりました。集石の確かな時期や性格は分かりませんでしたが、貝塚を作った人々の、生活の痕跡がつかめそうな情報を得ることができました。また昨年度、発掘調査現場で製作した貝層剥ぎ取りは、調査の概要とともに、根室市歴史と自然の資料館で本年度から公開しています。

この遺跡についてのお問い合わせは **根室市歴史と自然の資料館** まで  
住 所：根室市花咲港 209  
☎ 0153-25-3661

しべつちよう しせき しべつせいせきぐん いちやに いせき  
標津町 史跡 標津遺跡群 伊茶仁カリカリウス遺跡

(掲載番号 N-04-16)

調査理由：史跡整備

調査地：標津郡標津町字伊茶仁 57-3

調査主体：標津町教育委員会

調査期間：平成 23 年 6 月 1 日～8 月 22 日

調査面積：134 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

伊茶仁カリカリウス遺跡は、標津市街地から北西に 3 kmほど離れた段丘上にあります。段丘の標高は 20mほどで北側に伊茶仁川、東側にポー川が流れています。カリカリウス遺跡は、国史跡で 2 km四方、約 420ha の指定面積を持っています。昭和 52 年、56 年に部分的な発掘が行われ、平成 16 年度からは史跡整備のため、遺跡全体の状況把握を目的に発掘調査を継続して行っています。平成 23 年度の発掘では、史跡指定地の南側を流れるポー川の支流カリカリウス川左岸の段丘に 20m 置きの試掘溝を 26 ヲ所設定しました。

発掘調査で検出された遺構は、竪穴住居跡 16 ヲ所、土壇 7 ヲ所、盛土あるいは掘り上げ土 5 ヲ所、炉 2 ヲ所、集石 2 ヲ所でした。遺構の時期は、縄文時代早期が竪穴住居跡、土壇各 1 ヲ所、続縄文時代、擦文時代の竪穴住居跡各 1 ヲ所、アイヌ文化期の集石 1 ヲ所、それ以外は縄文時代中期末から後期初頭のものでした。

遺物は、土器片 102 点、剥片石器 33 点、礫石器 13 点、フレーク 164 点、礫 614 点、合計 931 点が出土しました。土器の型式では、縄文時代早期の条痕文土器、東釧路Ⅲ式、Ⅳ式、縄文中期末から後期初頭のトコロ 5 類、丸松式、続縄文時代の興津式、下田ノ沢式、擦文時代では擦文式、トビニタイ式が認められました。剥片石器は、スクレイパー、ナイフ、石槍、石刃鏃、ドリル等、礫石器は、砥石、石鋸、凹石等が出土しています。

この発掘によって、段丘上平坦面では、条痕文土器の時期と中期末から後期初頭（摩周 d 火山灰よりも下層）の分布が認められ、段丘斜面では、中期末から後期初頭（摩周 d 火山灰の上層と下層）の斜面全体に広がる分布と、東釧路Ⅲ式、Ⅳ式、興津式、下田ノ沢式、アイヌ文化期のそれぞれ小範囲の分布が認められました。

報告書は平成 24 年 3 月刊行予定です。



縄文時代中期末の竪穴住居跡



縄文時代早期の土壇

この遺跡や標津町の遺跡について知りたい方は

**標津町ポー川史跡自然公園** まで

住 所：標津町字伊茶仁 2784 番地

☎ 0153-82-3674

開 館：4月29日～11月23日 9時～17時

しべつちよう しべつがわかこうさがん いせき  
標津町 標津川河口左岸 2 遺跡 (登録番号 N-04-188)

調査理由：開発事業（河川） 標津川改修事業（標津川左岸下流築堤）

調査地：標津郡標津町字標津 82-3、1269-1、および両地番に挟まれた河川用地

調査主体：標津町教育委員会

調査期間：平成 23 年 9 月 26 日～11 月 22 日

調査面積：983 m<sup>2</sup>

### 調査の概要

標津川河口左岸 2 遺跡は、標津市街地中心から北西に 1.5 km ほど離れた標津川左岸の自然堤防上にあります。標高は 3 m ほどで標津川の蛇行跡に面しています。標津川左岸の河口近くでは、同様の立地の遺跡が他に 3 ヶ所、標津川改修事業に伴う範囲確認調査で発見されています。

標津川河口左岸 2 遺跡では、築堤工事範囲により分断された 3 地点、下流側から第 1 地点 302 m<sup>2</sup>、第 2 地点 144 m<sup>2</sup>、第 3 地点 537 m<sup>2</sup>の発掘調査を行ないました。

第 1 地点の発掘調査では、遺構は検出されず、遺物は、摩周 d 火山灰層の上層からスクレイパー 1 点、敲石 2 点、礫 23 点が出土しました。出土層位から縄文時代晩期から中期末の時期のものと見られます。

第 2 地点からは遺構、遺物ともに出土しませんでした。

第 3 地点では、摩周 d 火山灰層の上層の黒色土層から石鏃、磨石、凹石、礫など 80 点の遺物が出土しました。出土層位から時期は、縄文時代晩期から中期末の間と見られます。

また、摩周 d 火山灰層の下層のシルト層から、炉跡 48 ヶ所、炭化物集中 50 ヶ所ほどの遺構が検出されました。遺物は敲石、凹石、磨石、砥石などの礫石器 47 点、礫 143 点、礫の剥片 116 点、メノウの礫や剥片 20 点等などが主体で、剥片石器は石鏃 1 点、黒曜石の剥片 2 点ときわめて少なく、土器は皆無でした。遺物総数は 329 点で、時期は縄文時代中期末と見られます。

第 1 地点、第 3 地点の上層は、遺物が少なく、炉等の遺構もないため、一時的な立ち寄り場所に使われていたと思われます。

第 3 地点の下層は、炉が残された状況から、食事や休息、長くて数日のキャンプをして



第 3 地点の発掘調査状況



第 3 地点の遺物出土状況

いたと考えられます。また、炉がシルト層中に重なっていることから、何年も同じ目的でこの場所が使われていたと見られます。目的についてはこれからの研究課題です。

報告書は平成 24 年 3 月刊行予定です。

この遺跡や標津町の遺跡について知りたい方は

**標津町ポ一川史跡自然公園** まで

住 所：標津町字伊茶仁 2784 番地

☎ 0153-82-3674

開 館：4 月 29 日～11 月 23 日 9 時～17 時

平成24年3月 発行

市町村における発掘調査の概要 平成23年度(2011年度)

編集・発行

北海道教育庁 生涯学習推進局 文化・スポーツ課

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL 011-231-4111 内線35-606